



立野

練馬区立立野小学校

平成27年 12月号

<http://www.tateno-e.nerima-tky.ed.jp>

子供たちの成長を支えるもの

教務主幹 中野 智美

平成27年も師走を迎えました。この時期になると「今年の流行語大賞は？」「今年を表す漢字は？」など、1年を振り返るニュースをたくさん耳にします。そして、私たちも今年のことを振り返り、「こんなことがよかったなあ。」「来年こそは・・・。」などを考える時期でもあります。

さて、学校で働く私たちが振り返ることは、何と言っても子供たちの成長に関することでしょう。日常の何気ない会話から「こんなに友達の気持ちを考えることができるようになったんだ。」と感じたり、以前はできなかった逆上がりができるようになったことを一緒に喜んだりすることで、子供たちの成長の様子を見つけることはたくさんあります。子供を取り巻く私たち大人がどのようにかかわってきたから成長したのか、という視点は大切かもしれませんが、直接手を掛けることは案外少ないのではないのでしょうか。

私自身がこれまでたくさんの子供たちと関わってきて、成長の一番の鍵だと感じていることは、「今はできないけど、やってみたらできるかもしれない。」「今は知らないけれど、これまで分かっていることを利用したら分かるかもしれない。」と思えること、つまり、子供が自分で自分の可能性を信じられることだということです。いつも自分の力でできそうなことを用意されていると、挑戦する経験がなかなかできません。反対に、いつも大きな挑戦をさせられていると、成功した経験を積むことができません。今の子供にちょうどいい挑戦ができるようにすること、誰かの手を借りずに挑戦し、それをやりきった経験ができることが大切なのだと思います。ですから、私たちが授業を考えると、今の子供たちにとってちょうどいい課題なのかを見極め、友達と話し合う学習も取り入れるようにしています。そして、できたことや分かったことを友達と喜び合えることも心がけています。

立野小で仕事をしていて、本当にありがたいなと思うことがあります。それは「もうちょっとできそうだよ。がんばれ。」「失敗したけど、次にできればいいじゃない。」「自分ができるだけがんばったんだから、それで十分だよ。」と子供たち同士で励ましている言葉をたくさん聞くことです。子供たちは、家庭でたくさん温かい言葉をかけられ、おおらかに見守られているからこそ出てくる言葉なのだと思います。だから、学力調査において「読み解く力」や「記述式の正答率」が比較的高いのを見た時に、真っ先に自分の可能性を信じてがんばり抜く立野小の子供たちのよさが表れているのではないかなと感じました。これからも、子供たちの成長を支えることができる環境を用意していきたいと考えています。